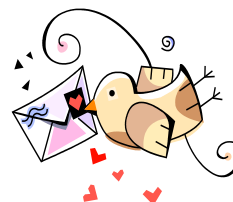


安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

★ 安全リレー ★



長野県における安全・適正就業の取組み

長野県シルバー人材センター連合会の概要（平成30年3月31日現在）

- ・センター数 21 団体
- ・会員数 17,343 人（内派遣登録会員 1,343 人）
- ・受注件数 102,197 件（請負・委任 101,580 件、派遣 617 件）
- ・契約金額 9,303,019 千円（請負・委任 8,615,917 千円、派遣 687,102 千円）
- ・就業実人員 15,793 人、派遣 1,206 人
- ・就業率 91.1%（請負・委任）、89.8% 派遣

1. 過年度&30年度4月～9月期の事故発生状況

	27年度	28年度	29年度	29年 (4月～9月)	30年 (4月～9月)
就業延人員(人日)	1,973,536	1,992,265	1,982,235	1,014,665	991,377
事故発生件数	184	210	229	149	107
事故者 ‰	0.0933	0.1054	0.1245	0.1468	0.1079

注) 事故者 ‰ (パーミル、千分率) = 事故件数 ÷ 就業延人数 × 1,000

作業の種類(技能群)別件数 平成30年度/29年度 同月比較

作業の種類	30年度 (4月～9月)	29年度 (4月～9月)	30年-29年	30年度の 事故の割合
自動車運転等	0	6	△6	0
植木剪定等	15	28	△13	14.0
その他の技能	4	4	0	3.7
建物施設管理	14	12	2	13.1
駐車場管理等	2	0	2	1.9
配達・検針等	4	3	1	3.7
屋内作業	5	7	△2	4.7
屋外作業	8	17	△9	7.5

除草・草刈り	46	63	△17	43.0
屋内清掃	6	8	△2	5.6
屋外清掃	0	0	0	0
高齢者福祉等	3	1	2	2.8
計	107	149	△42	100.0

平成30年度（4月～9月）の事故件数は、107件と29年度（4月～9月）の事故件数149件に比較し42件の減少となった。

これらの背景としては27年度より『危険ゼロ』の取組を強化し、取組目標を「安全ミーティングの完全実施」「安全装備使用の徹底」「健康診断受診及び健康体操の奨励」「交通事故防止」に設定し安全管理体制の確立、事故防止対策の実施、普及啓発及び健康管理の実施によるものと考えられる。

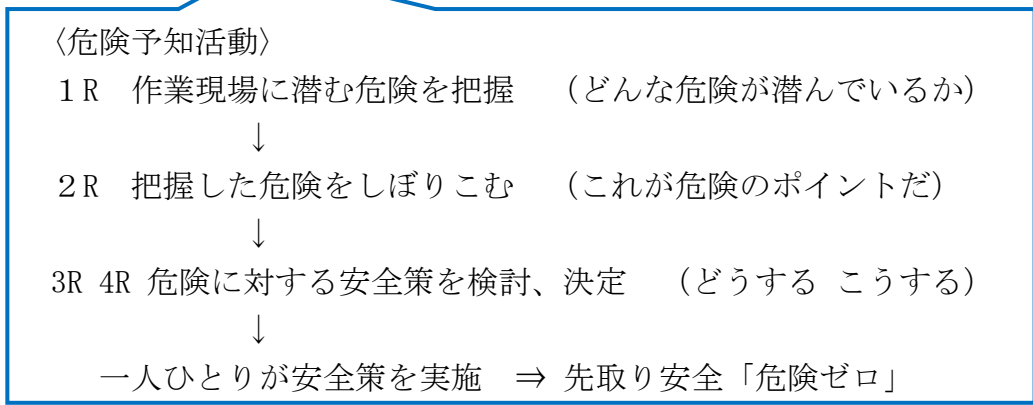
2. 連合会の安全・適正就業への取組み

重点目標を『危険ゼロ』に設定し事前に作業現場にある危険の芽を洗い出し、その要因を除去・低減して安全な作業環境を確保する。

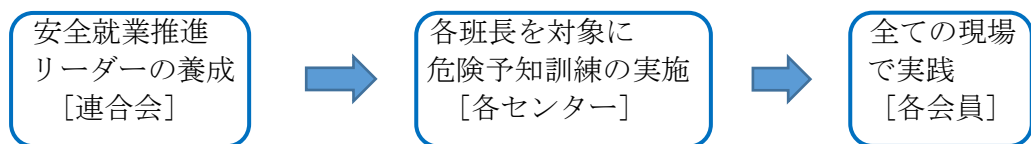
そのための取組目標を『安全ミーティングの完全実施』『安全装備の徹底』『健康診断受診及び健康体操の奨励』『交通事故防止』に設定し徹底を図る。

(1) 安全ミーティングの完全実施

→就業前に、ミーティングシートを活用し、体調確認、作業手順、作業に潜む危険の認識、安全装備使用の確認を行う。



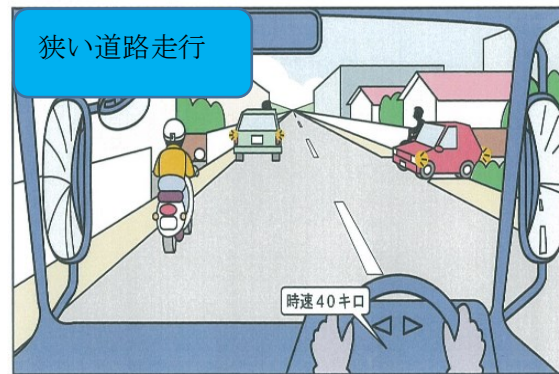
■全ての作業・作業現場で危険予知活動を実践するための取組



■危険予知訓練等リーダー養成研修の実施(H27～H30)

①危険予知訓練 基礎4ラウンド法	・イラストを使用して現場等に潜む危険を発見 ⇒把握⇒対策検討⇒対策を実践	H27 36名
②事事故例 KYT	・発生した事故を基に、どんな危険な事実があったか把握	H28 31名
③三角危険予知訓練	・危険個所に△印を付け、危険個所対策を合意形成し実践	H28 44名
④問題解決4ラウンド法	・検討テーマ決定⇒どんな事実があるか把握⇒問題点絞込み⇒対策を検討・決定⇒目標設定	H29 35名
⑤交通危険予知訓練	・イラストの場面の中で、危険を点検（危険の把握、対策、目標設定・・運転面の弱点に気付き改善）	H30 86名

●このイラストを見て考えられる危険をどんどん出し合う



■リーダー養成による危険予知訓練

○イラストシートを使って、5～6人のグループで安全対策を立てる。

- ・イラストの中に、どんな危険があるのか（現状把握）
- ・これは危険だ、これが事故原因のポイントだ（本質追求）
- ・どうするか具体的で実行可能な対策を決める（対策樹立）
- ・具体的な行動目標を設定し実践する（行動目標設定、指差し呼称項目確認）

○研修の様子

- ・これは、対策を決め、グループ全員で〇〇ヨシと指差唱和しているところです。

討議の司会・書記・発表者を決め

イラストシートに潜む危険を把握

↓

対策を検討・決定

↓

〇〇ヨシと指差し唱和



- ・グループでの危険予知訓練終了後、検討結果を発表しているところです。



各グループ毎に訓練の中で書記により、
模造紙に検討経過、対策等を記入



グループ毎に発表し他グループのコメントを頂き、好事例を共有

(2) 安全・適正就業推進委員会の開催

①第1回安全・適正就業対策推進委員会 平成30年4月26日開催

平成29年度取組結果、事故報告、平成30年度年次計画、重点目標、安全・適正就業パトロールの実実施計画、シルバー派遣による運転業務に係る安全就業基準について討議し、承認された。

②第2回安全・適正就業対策推進委員会 平成30年10月10日開催

安全標語の審査承認、安全・適正就業パトロールの実実施結果、30年度4月から9月期間事故状況報告、安全・適正就業推進大会の開催について討議。

③第3回安全・適正就業対策委員会 平成31年2月下旬 開催予定

協議予定事項 31年度年次計画策定、重点目標策定、事故発生状況報告等。

(3) 事故防止対策

①会員就業現場の巡回パトロール

安全パトロールを全センター実施し、指導の徹底・強化を図る。

各SC安全委員、安全推進員と6月中旬から7月にかけて実施。

②事故状況の把握・原因分析・情報提供

委員会事務局で事故内容の分析、再発防止策を各センターへ周知。

就業優秀SCの紹介、安全ミーティング実施の奨励。



(4) 普及啓発及び健康管理

- ①県内を5ブロックに分け、ブロック毎に安全就業研修会の開催。
- ②各センターの会員に対する健康診断受診の奨励、就業前の健康体操の実施。
- ③事故発生に関し、必要に応じて現地状況の調査を行う。
- ④安全就業優秀・優良シルバー人材センターの推薦を行う。(全シ協表彰)
- ⑤安全就業に関する標語を募集し、入選者は11月に安全・適正就業推進大会で表彰を行う。7月を安全就業強化月間とし、安全の啓蒙を行う。

平成30年11月1日 安全・適正就業推進大会に於いて、安全・適正就業標語表彰状が贈られた。



最優秀賞

「事故のもと慣れて横着 自分流」

公益社団法人

長野シルバー人材センター

三森 京子さん

長野県シルバー人材センター連合会様からの報告でした。
詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

★ 墜落災害防止にフルハーネス型の使用の義務化 ★

墜落・転落が依然として多発しております。

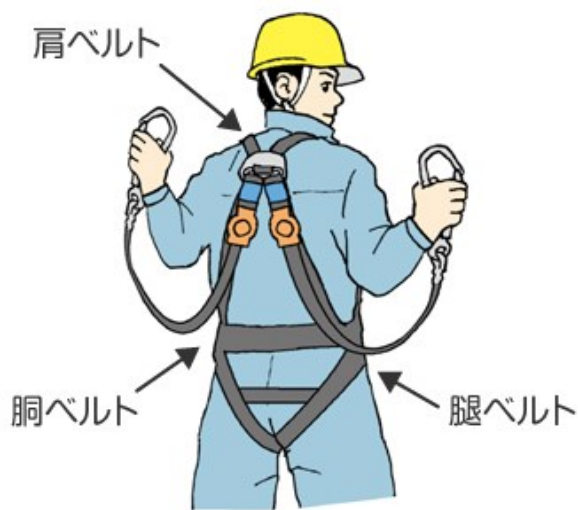
このため法令が改正され、墜落による危険の防止対策が強化されることになりました。

フルハーネス型の墜落制止用器具（安全帯）を正しく使い、高所作業を安全に行ないましょう。（ポイント①～③は2019年2月1日より施行）

ポイント

① 「安全帯」が「墜落制止用器具」に名称変更

「U字つり用胴ベルト」は、墜落制止器具としては認められません。



フルハーネス型安全帯

複数のベルトで支持されている
→ 落下時の衝撃が分散される



胴ベルト型安全帯

胴ベルトだけで支持されている
→ 落下時の衝撃が大きい

ポイント

② 安全衛生特別教育が必要

学科 4.5時間

実技 1.5時間

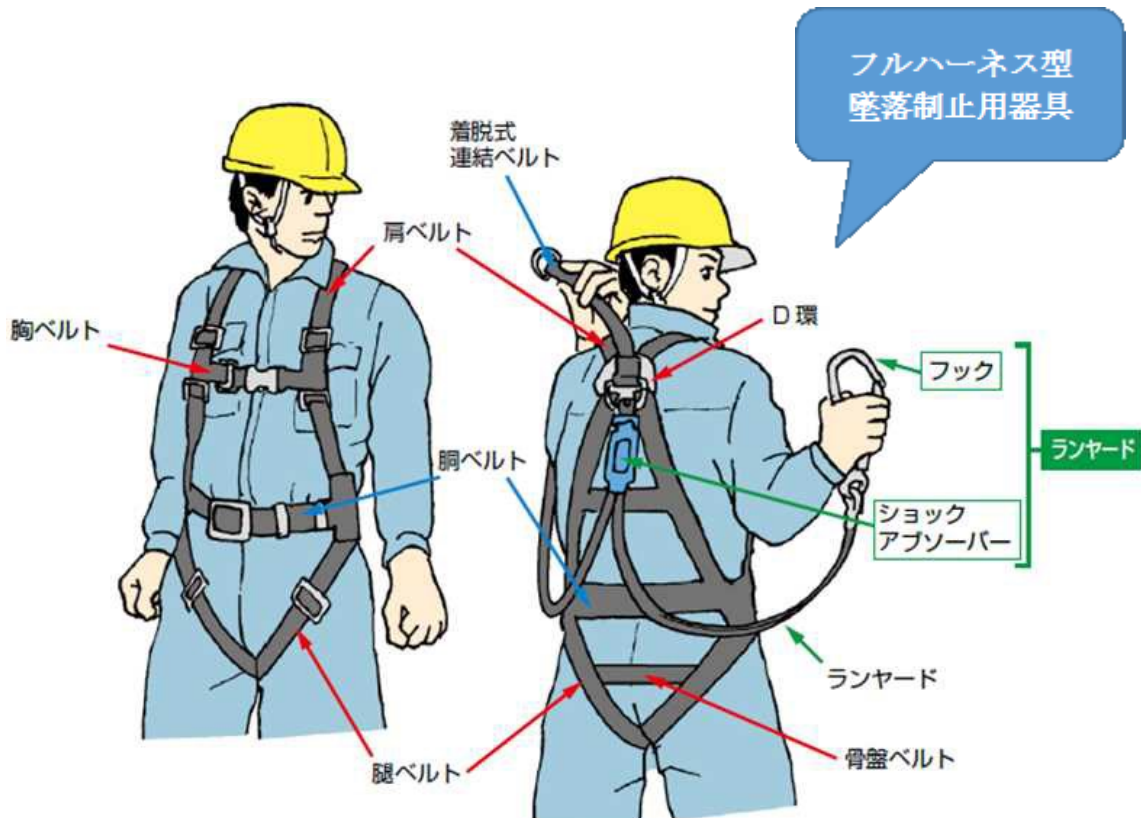
高さが2m以上であっても作業床を設けることが困難なところで、フルハーネス型を用いて作業を行なう場合は、安全衛生特別教育を受けなければなりません。

ポイント

③ 高所作業では原則として「フルハーネス型」を使用

フルハーネス型は、正しく使用していれば、墜落したときの体のダメージが、胴ベルト型よりも少なくなります。

(注) フルハーネス型の着用者が墜落時に地面に到達するおそれのある場合（高さ6.75m以下）は「胴ベルト型」も使用できます。



フルハーネス型の墜落抑止用器具のイメージ

(出所 中央労働災害防止協会「安全衛生かべしんぶん」、厚生労働省)

平成 30 年度 12 月 事故速報

(1) 重篤事故

12 月は、2 件の重篤事故報告がありました。

12 月までの累計で比較してみると、平成 29 年度の 29 件に比して平成 30 年度は 27 件と 2 件減少している。しかしながら、過去 5 年間で最も事故件数が少なかった平成 28 年度の年間累計 28 件まであと 1 件に迫る状況となっている。

また、就業中・就業途上別にみると、就業中では平成 29 年度の 20 件に比して 19 件と 1 件の減少となっており、また就業途上においては、平成 29 年度の 9 件と比して 8 件と 1 件の減少となる結果となった。

12 月報告分までの累計

平成 30 年度 12 月 累 計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				平成 29 年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	19 (2)	15 (1)	4 (1)	18 (2)	1 (0)	就業中	20	13	7	20	0	
就業途上	8 (0)	7 (0)	1 (0)	7 (0)	1 (0)	就業途上	9	7	2	6	3	
計	27 (2)	22 (1)	5 (1)	25 (0)	2 (0)	計	29	20	9	26	3	

↳ 対前年度比 93.1%

※ () 内は 12 月報告分

12 月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
26	男 77 歳	就業中 (入院)	平屋建て家屋の屋根塗装作業の依頼を受け 2 名で作業中、屋根の塗装位置を変えようと屋根の上で立ち上がったところバランスを崩し背部から転落した。救急車により病院に搬送されたが検査の結果「背骨の骨折及び脊髄損傷」を診断された。入院後 6 ヶ月が経過した現在も入院中である。	×	×	—
27	男 85 歳	就業中 (死亡)	道路・公園清掃の就業中に会員本人から体調がすぐれないとセンターに連絡が入り、職員が現場を訪問した。その後すぐ交代会員を手配し、午後より就業を変わる事になったが、訪問してから約 30 分後、駅前広場のトイレ内で倒れているところを市民が発見した。病院に搬入され入院治療していたが後日死亡した(家族の話によると数日前から体調不良であったとのこと)。	—	—	—

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

12月は、就業中の事故15件、就業途上の事故4件と、合計19件であり、昨年度同月28件と比して9件の減少となっている。また、男女別では、男性は5件の減少となっており、女性は4件の減少であった。

12月までの累計で比較してみると、昨年度の件数に比して、本年度は218件と1件の減少となっている。就業中・就業途上別にみると、就業中は19件の減少となっているのに対して、就業途上は18件の増加となっている。男女別では、男性は19件の減少となっているのに対して、女性は18件の増加となっている。

平成30年度12月分

	仕事の内容	事故数(件)		うち男性(件)		うち女性(件)		平均年齢(歳)	
		12月	累計	12月	累計	12月	累計	12月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等	7(10)	57(78)	7(10)	56(76)	0(0)	1(2)	75	75
	除草作業	2(1)	32(32)	2(1)	25(25)	0(0)	7(7)	75	75
	屋内・屋外清掃作業	3(2)	22(19)	0(0)	10(4)	3(2)	12(15)	70	72
	その他	3(6)	37(38)	2(3)	24(28)	1(3)	13(10)	73	75
	計	15(19)	148(167)	11(14)	115(133)	4(5)	33(34)	74	74
就業途上	徒歩	1(2)	19(14)	0(0)	5(5)	1(2)	14(9)	76	76
	自転車	1(2)	30(21)	0(1)	11(12)	1(1)	19(9)	79	75
	バイク	1(4)	14(16)	0(2)	5(8)	1(2)	9(8)	78	78
	自動車	1(1)	7(1)	1(0)	3(0)	0(1)	4(1)	64	73
	計	4(9)	70(52)	1(3)	24(25)	3(6)	46(27)	74	75
合計		19(28)	218(219)	12(17)	139(158)	7(11)	79(61)	74	75

()は平成29年度同月、累計では同月までの発生件数

- ・「男性会員の6ヶ月以上(180日)の入院報告」が1件あったので、重篤事故(12月報告分)として計上し、その分を「その他」(就業中)の累計件数から差引いた。
- ・「その他」(就業中)のうち報告の提出間違いが1件あり、また「自転車」(交通手段)のうち団体傷害対象として8日分しか認められなかった事故が1件あったので、それぞれ累計件数から差引いた。

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います。

(平成30年4月24日付 全シ協 事務局長通達により通知済)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。お正月はゆっくりされましたでしょうか。各センターで安全に対する色々な取り組みを行っていただいているにもかかわらず、今年度の重篤事故及び1ヶ月以上の入院件数が飛び抜けて多い県があり、12月末に県連合との共催で安全対策点検会議を開催しました。その際にもお話しましたが、事故を防ぐには、「安全はすべてに優先する」、「安全無くして就業なし」を合言葉に、「自分の安全は、自分で守る」という意識啓発が何より重要です。事故は「自分には関係ない」、「自分のセンターには関係ない」と思われている方はいらっしゃいませんか。自分には関係ないと過信することなく、誰にでも起こりうることととらえて、細心の注意を払いながら、就労していただきたいと思えます。今年度もあと2ヶ月半。みなさま、事故に遭うことがないように、最後まで気を引き締めて参りましょう。(松山)

平成30年度も第3四半期(9ヶ月)が経過しましたが、重篤事故件数は12月報告分までの累計27件となっております。これは過去最多件数であった昨年度の年間累計46件より同月累計比較で2件しか減少していません。冬の時期は地域によっては除雪関係の作業があり、雪に滑って転倒して地面に頭を打つ、または骨折する事故が増えることが予想されますので、作業をするに当たり、安全帽の着用及び雪道用靴の着用、さらに作業が複数人で行なうことなど、除雪作業等の安全面に十分に対策してください。また、就業途上においても雪道で転ばないように注意してください。(笹野)

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

<頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 216円 A4判
(税込・送料実費)

【改訂の内容】

- 1 現行のB5版/16頁からA4版/20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】